

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774901132		
法人名	平成建設興業株式会社		
事業所名	「さらそうじゅ」の家		
所在地	大阪府富田林市若松町1丁目1247-4		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和4年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsvoCd=2774901132-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和4年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとり、ゆとりある生活ができるように、日々ライフスタイルを利用者さま自身で決めていただきます。例えば、最大限自由な起床、就寝、入浴時間、散歩等の取り組みをしています。日常の生活の変化も見逃さないように心身の状態を観察し気づきを多く持ち、一人ひとりに対応しています。現在はコロナ禍で自粛中ですが、それまでは家族様と行く日帰り旅行や季節毎に行事を行い外に出る機会を多く作っていました。特に春の桜の花見(石川の河川敷)は楽しみにされていました。その他にも盆踊り、だんじり祭り、餅つき大会、敬老会等、寺内町初鍋巡りやひな巡り、灯ろう祭り、公民館祭り、社会福祉協議会のボランティアによる舞踏大会等の行事にも積極的に参加して、地域社会の一員として参加、参画していました。今後このような行事等が再開できるよう現在検討しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の活用を大切にされており、普段から施設近隣への散歩や社会資源の活用を積極的に取り組まれており、地域行事への参加も行われていました。法人内のスペースを活用し、地域住民向けのイベントを開催されており、利用者も参加されることで、地域交流・地域貢献に取り組まれていました。自動車を活用した外出も活発に行い、ちょっとした観光地等への訪問や、日帰り旅行も行われていました。コロナ禍の制限下において、従前のような交流・外出は困難になっていますが、感染症対策に配慮した上で、可能な範囲の外出から再開されています。提携医療機関が隣接していることで、緊急時の対応も速やかに提供される体制が確保されています。入浴を大切にされており、利用者の意向に沿った入浴タイミング・入浴回数の提供に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で理念を読み上げ職員全員で共有して、利用者様の心身の変化についての気づきを話し合い実践に向けて、日々取り組んでいる。	理念は、利用者個々の思いを大切にし、思いの実現、その人なりの生活の実現を大切にされています。地域を大切にされ、地域との交流・協働・活用を意識した施設活動・支援の提供に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍で自粛中ですがそれまでは、自治会では盆踊り、だんじり祭り、餅つき大会、火災訓練等 老人会は、お花見、敬老会等 その他行事は、寺内町新春初鍋めぐり、お雛様めぐり、石川河川敷の鯉のぼり、寺内町灯ろう祭り、農業祭、公民館祭、社会福祉協議会主催」のボランティアによる舞踊大会、地域のボランティアによる歌と演奏、小学6年生卒業記念ボランティアの子供達を迎える等 種々地元の行事に参加して交流を深めていました。	地域の方々に向けたイベントや行事を、法人スペースを活用して開催されており、利用者と共に参加型の行事等が行われていました。地域の社会資源を積極的に活用し、利用者と共に、利用し、訪れる日常が展開されていました。コロナ禍の制限下において、従前のような交流・外出は困難な面がありますが、制限解除に伴い、可能な範囲から再開に取り組まれています。	コロナ禍の制限下において、従前のような交流が困難になっていましたが、制限解除に伴い、再開拡充していくことが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍で自粛中ですが、今後は施設駐車場でバザー等を開催予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍で中止になっていますが、運営推進委員会で利用者様、ご家族のサービスの評価を種々議案にもりこみ、委員で話し合い向上に活かしています。会議録等のご家族に郵送していました。今後はZOOMで再開予定です。	コロナ禍の制限下において、対面開催は困難な状況ですが、資料配付によって、意見を聴取されています。家族等にも資料配付で対応されています。現在、インターネット環境を活用した開催を予定されています。運営推進会議での意見を基に、地域の方々が参加できる施設行事の開催に繋がられた事例が確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在はコロナ禍で中止していますが、運営推進委員になっていただき報告書を市役所に提出していました。また、「びあ」介護相談員の月1回の来訪でサービスの向上にとりくんでいました(現在はコロナ禍の為休止中)。予定としてびあ介護相談員三者連絡会に参加予定です。	日常は地域包括支援センターとの情報共有・情報提供が行われています。市の主催するネットワーク活動等への参画があります。コロナ禍の制限下において、積極的な協働は困難ですが、可能な事から連携の再開に繋がれるよう努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が研修を受けて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを回覧して正しく理解しケア向上に取り組んでいる。	年6回の拘束にかかる適正化委員会が開催されています。2ヶ月に1回、拘束にかかる研修・情報共有・勉強会が開催されており、拘束に繋がりにくい支援とならないよう、心がけられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修を受講して、虐待防止を職員全員に周知してもらい、遵守する。マニュアルを回覧して正しく理解しケア向上に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修や、民間事業者対象社会福祉研修を受講し、必要な方には、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項、契約書を利用者様、ご家族の前で読み上げて説明をして理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はコロナ禍で中止していますが、「ぴあ」相談員の派遣を受け入れて運営に反映していました。定期的に家族会「きずな」を開きご意見を運営推進委員会で議題にとりあげて運営に反映させていました。「きずな」の会議録は欠席の方に郵送しています。家族会「きずな」の再開については現在家族様のご意見を聞いており、再開に向けて取り組んでいます。	家族会があり、家族等からの意見提案、意見交換の機会が確保されています。運営推進会議にも利用者や家族等の出席があり、意見表出の機会となっています。家族等の意見を基に、法人内別スペースを活用し、コロナ禍であっても可能な、利用者と家族の交流機会・会食機会の提供に繋がられた事例が確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議で検討事項やケース内容を話し合う中で、随時提案できる機会を持ち、理念通り実行できる体制をとっている。	毎月の定例会議の中で、職員からの意見が積極的にあげられるよう配慮されています。法人代表者に直接職員から意見を言いやすい場や機会を確保されています。職員の意見を基に、食事支援の方法の変更や、リクリエーションの拡充等に繋がられた事例が確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の取りたい資格について研修を受けれるように、取り組んでいる。資格が取れた時には給与アップに繋げている、その事がやる気やケアの向上に生かされている。勤務状況については事前に職員の意見を聞き、作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自担当をもち、それぞれの分野で企画立案し会議で発表して全員で取り組むシステムを構築、相互に育成しあう。管理者は、職員の段階に応じてサービスの向上につながる指導をして研修を受ける機会も確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の取組みの「なわなわネット」や研修会で交流を図っています。同業者の広報誌を相互に郵送したりして交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実際に見学に来ていただき、お話を伺い、お試しで入居していただけるシステムがあり、安心して生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際に見学にきていただき、お話を伺い、不安がないよう説明し受けとめるようにしています。お試し期間がありますので、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、他のサービスが適していると考えたときは、その説明もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意なことを生かして講師になっていただき（生け花や編み物等）、他の利用者様、職員が受講して楽しんでいる。（成功して喜んだり、失敗して哀しんだり、間違っって怒ったり、それぞれの感情が共有できる。）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に「報告、連絡、相談」を徹底し、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自粛していましたが、現在個々の大切にされている事が継続できるような支援に努めて、ホームにも友人の来訪があり、利用者様の地元での生活が継続されています。コロナ前は毎日の散歩、買い物、散髪も馴染みの場所であり、友人、知人、に会ったりして喜んでおられました。今後は散歩の再開を検討しています。	馴染みの社会資源を積極的に継続活用し、従前の生活慣習を維持出来るように努められています。コロナ禍の制限下において、従前のような直接の関係性は制限されていますが、可能な範囲での継続と、制限解除に伴う感染症対策に配慮した再開に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が、お互い支え合う関係ができています。職員の見守りのなか食事に行かれてコミュニケーションを図ったり、食卓の配置を考慮している。食事の時間をより楽しい時間になるように工夫している。カラオケを楽しみたい方は2階談話室でカラオケを楽しんだりされる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はコロナ禍で難しいですが、行事の参加のお誘いや気軽に立ち寄りいただけるよう取り組みを徐々に再開に向けて取り組んでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の担当する職員が中心になって希望や意向を聞いたり、様子を見たり感じとり把握し、申し送りやケース会議を開き利用者様の意向を職員全員が理解し、本人本位のケアに努めている。	日常の支援や生活の中で、利用者の思いや意向、嗜好等を把握できるよう努められています。入浴時や日常の何気ない会話の中で得られるヒントや事実を基に、職員間で情報を共有し、利用者本位の支援に繋がられるよう心がけられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と会話をして感じ取り、ご家族様、入居者様の前のケアマネージャ方、関係者皆様からお話を伺いそのつど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会議、介護日誌、申送りノート等で心身状態、有する力の現状を総合的に把握して出来ない事を支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の担当する職員が中心になってモニタリングの作成をおこない、担当者会議、ケース会議等で検討して介護計画を作成している。申し送り時に気づいた事等、介護計画に反映している。	計画のアセスメントは毎月行われており、担当職員を中心に担当者会議やケース会議を経て、次回介護計画策定に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の介護日誌、申送りの記録等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。ケアの統一にもつながる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望に応じて弊社の有する他部門の事業を活用したり他事業者へ依頼する等柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の道路を挟んで前の病院が主治医であり日頃より利用者様のことを理解していただき、往診も可能で、利用者様、ご家族は、喜んで納得されている。そして診療科目によって、それぞれの病院に受診できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個別の日々の介護日誌、送り目の記録等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。ケアの統一にもつながる。</p>	<p>かかりつけ医は、利用者の意向による選択が行われています。提携医療機関は、施設隣接であり、24時間対応に対応出来ると共に、緊急時の速やかな対応に繋げられる体制が確立しています。入所前から継続して診療を受けている医療機関や、必用に応じた専門医等の受診は、家族支援で行われています。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけの医院の看護職員の方や薬剤師の方に相談して医療活用の支援をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>必要な時に随時、カンファレンスをしたり、種々情報交換をして、入院しても早期に退院できるように努めている。協定を結んでいる病院もありますが、現在入院されていない。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人の容態を、主治医に説明していただき ご家族と職員（管理者、計画作成担当者）で話し合いご意向に添った方針でケアの取り組みを共有し出来る限り事業所で安心して生活をしていただき出来ないことを見極め地域の病院で入院の手続きや準備手配を支援している。</p>	<p>重度化・終末期に向けた説明が行われています。該当する状況となった場合には、主治医を含めた説明と話し合いが行われ、計画の策定へと繋がられています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は人工呼吸、AED使用の講習を受けたり、定期的に訓練を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は職員と利用者様と消防分団の方と避難訓練をしています。コロナ前は消防署に指導の依頼をして隊員会の下、近隣の住民と一緒に総合訓練（避難、通報、消火）を行っていました。通報訓練の際は、実際に非常ベル・火災通報装置を作動させました。消火訓練は、水消火器を使い使用手順を確認し放水しました。また、施設の前の消防分団、自主防災組織との連携を図り地域の人々の協力を得て実施していました。設備はスプリンクラー・自動火災通報装置を設置しています。	火災・地震に関する訓練の実施されています。夜間想定 の訓練も行われています。地域の消防分団や、地域の人々の協力を得た訓練にも取り組まれています。備蓄品は、消耗品・備品・食品・飲料水が用意されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの同意について、契約時に同意書を交わす。プライバシーの保持を遵守し、声かけについても自然な流れの対応を心がけている。日常は言葉遣いに注意を払い居室に入る場合ノックをして（開けてもいいですか）と声かけをする等その人の誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	利用者の尊厳を損なったり、羞恥心を損なうことに繋がらないよう意識した支援の提供に努められています。声かけによる侵害が生じないように心がけられています。利用者同士のプライバシー侵害が発生しないように、利用者間の行動等にも配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時、ご利用者の意向を確認できるよう理解しやすいように説明し、「どちらが良いですか？」と伺い、自身で決めていただくように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床については、個々のペースを大切にして、服薬時間を考慮しつつ自由にされている。就寝時間についても個々のペースで支援している。入浴は、随時できる態勢をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡を見て髪を整え髭を剃ったり化粧水や乳液をつけ楽しめる。利用者様が選んだ清潔な服を着たり理美容には、利用者様の望む時期にカットできるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には個々の好物をメニューに取り入れて、季節の行事に添って手作りの食事作りを楽しんでいます。	利用者の生活能力に応じた、食事準備・片付けへの参加が行われています。週末は、利用者と共に食事を作る機会になっており、行事食やイベント食等、季節を意識できる内容にも配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェックしている。食事は外部委託(よさく食堂)しよさく食堂の方と栄養バランス等を相談して食事のメニューを決めています。1日の摂取カロリーの目安 男性:2050kcal 女性:1550kcal		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、入れ歯の手入れ、うがい等を個々の状態に応じて行っている。歯科による定期訪問で検診や歯の磨き方講習も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表で排泄の感覚を知り早めに対応する。ご本人の様子を読み取り気持ちよくトイレで排泄できるように支援している。尿意が感じれるよう出来る限りパンツ、パットで自立に向けた支援をしている。	利用者の排泄自立を維持出来るよう、利用者個々の状態とペースを踏まえた声かけを行うことで、利用者が自尊心を失い羞恥心を抱くことに繋がらないよう努められています。利用者が接種する水分量を意識し、便秘に繋がらないよう配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便のリズムを把握し、適度な運動、水分摂取、朝食にヨーグルトやバナナ等工夫しているが、それでも便秘ぎみの利用者様には、医師と相談して整腸剤など種々取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	随時入浴できるように支援している。入浴剤や個々の好きなラジオや音楽をCDで流し楽しまれている。ご本人の希望や状態に合わせて足浴、手浴をしている。	入浴は、利用者の意向に沿った機会を提供出来るよう努められています。回数制限や時間固定等を行わず、可能な範囲で、利用者の意向に沿った、回数・時間での入浴実現に繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して 気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご意向に応じて休息されたり安心して眠れるよう環境に配慮し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確 認に努めている	「薬、受診記録」で薬の目的、副作用、用法、用量について理解しており医師の指示通り服薬できるよう支援し症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活 かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分 転換等の支援をしている	個々に家事の役割、得意なことで先生になって頂き、利用者様皆様と楽しんだり、カラオケで気分転換したりして楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、 戸外に出かけられるよう支援に努めて いる。又、普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけられる ように支援している	現在はコロナ禍で自粛中ですが、それまでは毎日の散歩だけでなく、その日の本人の希望に応じ買い物、図書館、ドラッグストアや美容室に行ったり、自宅に戻り家族様と一緒に墓参り、食事をしたり穏やかな時間を過ごされたりと、色々な方法で外出が出来るよう支援していました。今後、感染状況も踏まえ散歩等を再開できるよう検討中です。	地域資源を活用し、地域の社会資源や利用者の馴染みの店や場、思いのある場所等への外出支援が行われていました。コロナ禍の制限下において、従前のような外出が困難な状況ですが、制限解除に伴い、可能な範囲からの再開を目指されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切 さを理解しており、一人ひとりの希望 や力に応じて、お金を所持したり使え るよう支援している	現在はコロナ禍で自粛中ですが、職員と一緒に買い物や外出時に利用者様が財布を持ち、希望に応じてお金を使えるよう取り組んでいました。例えば地域のお祭りや、行事では屋台やお店で、お茶を飲んだり好きな物を食べたり、買ったりしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話を したり、手紙のやり取りができるよう に支援をしている	事務所の電話や携帯電話を利用して随時電話をできるように支援している。年賀状、手紙等やり取りされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る。テレビの音量は、会話の邪魔にならないよう、日差しは、ロールカーテンで調整している。3時になると、2階では喫茶「さらそうじゅ」が開店しコーヒー・紅茶、おやつを食べ楽しまれている。温度については、適温に配慮し、好きな空間で過ごされている。	複数の共用空間があり、利用者の用途や気分による場所の使い分けが出来るように配慮されています。季節感を感じて頂く花等が装飾されています。共用空間内に臨時の喫茶コーナーを設ける等、飽きの来ない変化を持った共用空間の運用に努められています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階の壁には、利用者様と一緒に作った造花や写真を飾って温かい空間を作り、思い思い過ごせるように工夫している。独りになりたい時は、それぞれの空間で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、化粧品、コーヒーメーカー等の生活用品などを持ち込んでいただき、居心地良く過ごせるよう工夫している例えば自分で描かれた作品や写真、人形を飾ったり整理ダンス、テレビ等使われている。	居室には、利用者の思い出や思いのある写真等が装飾されたり、使い慣れた家具や、小物等が、利用者の意向を踏まえて居室内に配置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、ドアの開閉がしやすくなっている。トイレや浴室、居室等に目印を付けたり種々工夫している。		